

支える・つなぐ・あゆむ

子どもの笑顔輝く大津の教育

ー「有志竟成」(ゆうしきょうせい)ー

大津市教育委員会教育長 島崎 輝久



6月初旬、2024年本屋大賞を受賞された、宮島未奈さんの「成瀬は天下を取りに行く」を読みました。私が高校2年の夏に開店し、服を買うのも、お遣い物も、必要なものがあれば取りあえず西武・あってあたりまえだった西武大津店の閉店、部活動を〇〇班と呼ぶなど実名で登場した我が母校、私の住まいに近いカルタの聖地などが軽妙に描写され・そして、主人公の相棒・みゆきさんの名字が島崎・冒頭から自分が呼ばれたような不思議さと懐かしさを感じながらページを進めました。中でも一番惹かれたのは、やはり主人公・成瀬あかりさんの様々なことに夢をもち、自分の可能性を切り拓いていくパイタリティーです。世代を超えて、思わず心の中で拍手を送っていました。今は第2作を読み始めています。

先日、私がB中学校在職時に地域役員として、また保護者としてもたいへんご協力いただいたお母さんが訪ねて来られ、「娘(Aさん)が頑張っていたことが、多くの方々のおかげで本になりました。ぜひ教育長にお見せしたくて・・」と「びわ湖のプランクトン フォト&ムービー(文理閣)」という本を贈呈してくださいました。

Aさんは、私がB中学校に赴任した年の1年生。入学当初、お母さんは顔を合わせるたびに、「うちの娘は何でもやりたがるので、校長先生に迷惑をかけるかもしれません」とよく話されていました。当時から生徒の地域行事への参加がさかんなB中学校。お母さんの言葉通り、Aさんは夏祭り、寺子屋、防災訓練とどんな時も意欲満々。「いつも頑張るね」と声をかけると、「ボランティアも好きだけど、一番興味があるのは『プランクトン』です」と驚く返答。よくよく聴くと、浜大津港に拠点があるNPO法人に小学生時から参加し、専門家や大学の先生と何度も何度もびわ湖へ出て水質調査を行っているとのことでした。

中学時代のAさんは、生徒会活動に精を出す一方、いろいろな場・機会に「プランクトンの研究」を発表し、中学3年時には、幕張メッセで開催された国際的なシンポジウムにおいて、見事に英語でプレゼンをやり遂げました。生徒会長を務めた高校時代も、夢を追いかけて関東の海洋系大学に進学し3年になった今でも、帰省したら時間を見つけて調査に出かけるAさん。

帰り際にお母さんは、「娘は今までの研究を活かそうと公務員を目指しています。また、応援してやってください。私も今は娘の後を追って頑張っています」と、いつの間に就かれたのかNPO法人理事の肩書が入った名刺を渡して行かれました。

「有志竟成」・見慣れない漢字、聞き慣れない言葉ですが、Aさんが中学3年の年に、タンパク質「PD-1」の発見、がん免疫治療薬「オプジーボ」の開発等でノーベル医学・生理学賞を受賞された、本庶 佑(ほんじょ たすく)氏の座右の銘です。中国の歴史上有名な「光武帝」が述べたとされ「後漢書」に記されており、「強い志をもち頑張れば、目的は達成できる」という意味があるようです。

大津市教育支援センターは、あなたの思いに寄り添い、あなたの夢を応援します。どんな小さなことでも遠慮なく、ためらわずに、どうぞご相談ください。

教育支援センターの事業について

大津市教育支援センターでは、その運営方針に掲げる「子どもの学校、家庭等における教育上の課題の解決に向けた支援を行い、子どもの社会的自立に資する」ように、今年度運営組織を「特別支援教育」「相談」「不登校対策」「管理」の4つのグループに再編いたしました。

子どもの情緒不安や集団にうまく入れないなどの課題に対応するとともに、子育てに悩む保護者や教職員に対して教育相談を行います。また、保護者対象の講演会や教職員対象の研修会・講演会なども開催しています。

① 特別支援教育グループ

① 特別支援教育の充実

市立小・中学校の特別支援学級、通級指導教室への指導助言、個別の指導計画の作成や教育課程、具体的な支援のあり方に関する研修や指導、医療的ケア支援員の配置に関する事業を推進し、特別支援教育の充実を図ります。

- 特別支援学級に関する教育課程指導および観察訪問
- 特別支援学級の設置に関する事務（令和6年度251学級）
- 小・中学校に医療的ケア支援員を配置し、経管栄養や吸痰などを行う

② 特別支援教育に関する巡回相談

市立小・中学校に在籍し、特別な支援を必要とする児童生徒の状況を把握し、学校での具体的な支援の方法について相談・助言を行います。

- 教員OBや公認心理師・発達相談員による巡回相談
- 多職種の相談員による専門的な巡回相談
- 特別支援教育担当の教育支援員が、学級で継続的に子どもの支援を行う参画型相談

③ 就学に向けた相談

小・中学校への入学にあたり、「特別な支援が必要なのでは」と心配な場合に、子どもや保護者の方の希望を踏まえながら、相談員が必要な情報等を提供し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行える就学先（特別支援学校、特別支援学級）を一緒に考えていきます。子どもが、今のもてる力を発揮し、生き生きと学ぶことができる学習環境はどこなのかを大切にしています。

④ ことばの教室

言語発達の遅れ、吃音、発音が上手くできない、コミュニケーションの苦手さなど、ことばに障害や課題のある幼児・児童・生徒を対象に、個々の状況に応じてことばの発達を支援するため、言語に関する相談指導をする機関です。

ルーム名	場所	電話
北部教室	志賀南幼稚園内	077-594-1211
中央教室	明日都浜大津1階	077-527-5527
南部教室	膳所小学校内	077-521-1893



② 相談グループ

① 電話による教育相談 ■電話 077-525-7912 または 077-522-4646

- 月曜日～土曜日 9:00～17:00（受付は16:30まで）
- 不安を抱えている子どもや、子育てなどで悩んでいる中学3年生までの保護者からのご相談をお受けしています。学校からの相談も受けています。
- 電話相談から来所面接による教育相談につながるケースもあります。

② 来所面接による教育相談（要事前予約）

- 月曜日～土曜日 9:00～16:30
- ・親子並行面接相談
- ・教職員への教育相談、情報交流会、ケース検討会議
- ・単発の来所面接による相談



③ 専門医によるこころとからだの相談

学校による対応だけでは解決が難しい医療面の課題を抱えた長期欠席の児童生徒ならびにその家族等への適切な支援について、学校が専門医に相談し、助言を受けることで、疾患や治療に対する正しい理解の促進を図り、よりよい対応につなげます。

- 精神科医 本谷 研司 大津市教育支援センター スーパーバイザー
- 相談場所 学校または教育支援センター



③ 不登校対策グループ

① 教育支援ルームウイング

大津市内に在住の小学生・中学生を対象に、再登校・主体的な進路選択・社会的自立への教育支援を目的としています。

対象	ルーム名	場所	月	火	水	木	金
小学生	ウイングせた	瀬田北市民センター	○			○	○
	ウイングぜぜ	生涯学習センター		○	○	○	
	ウイングおの	小野児童館		○	○		○
中学生	ウイング・レイク ウイング・スカイ	明日都浜大津	○ ○	 ○	○ ○	○ ○	○ ○
	和邇	和邇文化センター		○*			○*
	瀬田	瀬田東市民センター	○*		○*		

- 小学校1年生から通うことができます。
- 小学生の活動時間は、9:00～11:30です。
- 中学生の活動時間は、9:00～15:00です。
- ※木曜日は12:00まで
- ※和邇・瀬田は9:00～12:00

② アウトリーチ型支援

市立小・中学校に在籍し、不登校（傾向）の状態にある子どもについて、その長期化・固定化を防ぐため、在籍校や家庭を訪問して要因や背景等の見立てをし、個に応じた支援方策を検討・実施することで、学校復帰や社会的自立につながる支援を行います。

- 教育支援員と公認心理師が、学校の別室などに出向き、学校に来にくかったりウイングまで足が向かなかったりする子どもを支援します。
- 必要に応じて教育支援ルーム「ウイング」につなぎます。
- 公認心理師が子どもや保護者に対してカウンセリングを行います。

◇ 校内ウイングの取組紹介 ◇

今年度教育支援ルームウイングでは、「中学校ウイング瀬田」を新設し、小学校、中学校ウイングそれぞれ、市北部・中部・南部に1か所ずつ開設し、市内全域にわたって不登校児童生徒を受け入れることが可能となりました。

また、校内教育支援センター（校内ウイング）のモデル校を9つ（市が4校、県が5校）指定し、学校に行きにくかったり教室に入りづらかったりする児童生徒が自分のペースで安心して学び過ごせる環境を整え、その取組を発信していきます。

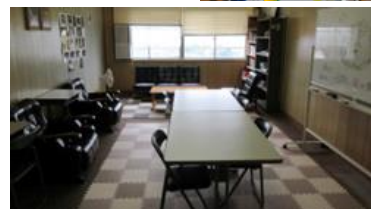
6月24日から7月2日にかけて、モデル校での校内ウイングの公開がありましたので、その一部を紹介します。

【市】打出中学校 ポート室（3階）

今年度スタート時に全教職員でポート室の運営に関わっていくことを確認し、学年集会で担当教員が生徒にポート室について説明しました。

ポート室にはスバル（学習の場）とオリオン（リラックスの場）の2部屋があります。

職員室の中央には右のようなボードが立ててあり、その日の利用生徒名、登下校時間、給食の有無などの情報が共有されています。



【県】瀬田北中学校 ポートルーム（1階）

教室を学習、交流、リラックスする3つのエリアに分けています。

市のウイングの要素を取り入れ、教員やスクールカウンセラーと一緒にカードゲームをするなど、水曜4校時に交流時間を設けています。また、他の学校でも見られますが、仕切りに使っているホワイトボードに生徒が思い思いに絵を描いていました。



ポートルームのリーフレット（校支援のライブラリに掲載）

【市】南郷小学校 オアシス（3階）

その名の通りオアシスには植物が置いてあり、メダカも泳いでいます。生き物を育てる活動を取り入れることで、毎日登校しようと思えるきっかけになっています。

教室の真ん中に仕切りを兼ねたロッカーがあり、専用の荷物置き場を作ることで、教室以外にも居場所がある安心感を大切にしています。また、その上には図書館のようにお勧めの本がブックスタンドに飾られています。

開設時間（3校時から給食・掃除まで）を決めることで、子どもたちも教員も見通しをもって利用や支援ができるようになりました。



【県】堅田小学校 クローバールーム（2階）

改修工事のため仮設校舎の2階にクローバールームがあります。1つの教室を不登校支援と学習支援に分けて運営しています。

毎日担任が児童に時間割や学習内容を伝える機会をもち、学級とのつながりを感じられるようにしています。総合的な学習の時間にクローバールームと学級をオンラインでつなぐことができました。

仮設ながらも工夫やアイデアが随所に見られました。



【県】青山中学校 あおぎり（3階）

校内ウイングの全体計画を作成し、校内研修等で不登校や特別支援教育に対して正しい理解が深まるように取り組んでいます。また行き渋りの段階

でアセスメントを行ったりユニバーサルデザインの授業を進めたりし、落ち着いた雰囲気での授業作りを大切に、教室に入りづらい生徒を減らす工夫をしています。

現在、授業時間にあおぎりを常時利用する生徒はいませんが、あおぎりで給食をとる生徒が数人います。



あ と が き

市役所で「湖西線開通50周年」と書かれたのぼりを見かけ、そう言えば自己紹介をするとき「誕生日は琵琶湖大橋と同じで、年齢は湖西線と同じです」と言っていたことを思い出しました。栗東市で生まれ育ったのですが、堅田に住んでいる伯母の家に泊まりに行ったり内湖で魚釣りをしたりと子どもの頃から大津は身近でした。田んぼが広がる堅田とちがって、街中にある西武大津店に連れて行ってもらうときはいつもワクワクしていました。小6の頃からだったと思いますが、初詣で近江神宮に向かうたびに、近江大橋のたもとのビルがどんどん高くなり、中3の春には大津プリンスが完成しました。琵琶湖を見るたびに大津の教員になれたことを誇りに思っていました。今は明日都の屋上から琵琶湖を眺めるたびに、子どもたちに寄り添い、子どもたちの夢を応援する大津市教育支援センターを誇りに思っています。